

日九廿月七 刊夕

# 常磐每日新聞

定額一圓五錢 郵費五錢  
廣告料五號十二分 一行金五拾錢  
日曜祭日の日休刊  
發行所 常磐毎日新聞社  
印刷所 常磐毎日新聞社

## 頂生王物語

(經典說話)  
菅原霞村

(二)

君主も全洲の民衆も共に喜びのうちに頂生王を迎へてくれた。王は喜びのうちに幾年がを其處に過ぎた。或る日のこと、頂生王はまた考へ初めた。  
「朕には西方の國拘耶尼があり、今また南方の閩浮提洲まで我が勢力下に置くことが出来た。聞けば東の方に弗子速といふ處がある、土地の廣さは三十六萬里四方もあるといふことぢやがこれが自分の手に入つたらどんなに愉快なことであらう。」  
すると、金輪の寶車は動き初め、王はいつとはなしに車上の人となつた。のみか、四種の兵に護衛されながら雲の上を飛行してゐるのであつた。かやうにしながら頂生王は、また東方の國の君主や民衆に歓迎せられながら、幾年かを其のうちに暮すことゝなつた。願へば何事も叶はざるなき、恵まれた國土に住み慣れて見れば、生活はたゞ單調なものにしか思へなかつた。頂生王は、暖かい羽蒲團のなかに身をうづめながらまた

新たなる望みに想ひを走せ初めてゐた。  
「朕は斯やうに西土も南土も東土も配下になし得たがほのかに聞けば北方に舊單曰といふ國があるさうぢやあわが手に入れられたら何と幸福なことではなからうか。」  
すると、いつもの様に四種の兵に護られながら、隼のやうに北方指して駆け續ける金輪の寶車のなかに頂生王に坐つてゐた。やがて青々とした地面が脚下に展開され、處々に雪のやうに真白な一區劃が眼に見えて來た。  
「そうれ、あの白く見えるのが、白で搗いて白らげた米が展げてあるのぢや、お前達も引きつれて來る朕を待つて居るやうにも見える。」  
包紙の折口は着物の合せと同じ向。一枚紙で包めぬ物は二枚で包む。凶事の時は一枚に限る。  
のう。また地上には寶ものがフサ／＼とさがつてゐる珍らしい樹があるといふことぢや、思ひの儘に取り用ひるがよいぞ」と兵士達に言ひ聞かせた。  
やがて金輪が下方に降り初めた。下からは萬歳の聲

## ノート

包紙の折口は着物の合せと同じ向。一枚紙で包めぬ物は二枚で包む。凶事の時は一枚に限る。

と共に民衆のどよめきが一時に響いて來た。頂生王は斯くて北方舊單曰國をも支配下にすることが出来た。幾年か過ぎ去つた時、王はまた恒利天の帝釋の住處を思ひ出し、行つて見た

【白】金銭計算上目上と意見不合の占あれば目上に逆らはざるが吉【二黒】物事總て瑣明ず延々の凶日なれば病氣怪俄紛失等に注意なさい【三碧】營業取引に奔走を用するも雖も望事へ半吉半凶に終る【四綠】希望に奔走の念は失望は凶富土山も一歩より然らざれば中途より破壊となる【五黃】病氣怪俄紛失盜難の愁話を聞く日なれば我が身邊を守る可し【六白】自強功論のある日繼續獎勵して信厚す可し【七赤】火災水難の患ひ又は離別か死別の愁話を聞く事あれば萬事に注意【八白】病氣怪俄移轉の件念あるも皆延々するの凶日なれば萬事注意【九紫】望事金談總て吉祥あるも只婦女子の口舌に注意【米と株は御來所を乞

【畫】精進揚一さつま芋  
【朝】すまし汁いもす  
【明】日の献立  
【晚】わん／＼たごどうふ  
その葉 ころも  
薄くす わさび

### 院醫科齒村中

七町冶鍛町平

地人定額相事  
高野澤  
平島  
堂前  
一前  
所斷  
象定

### 院醫科齒村中

七町冶鍛町平

### 院醫科齒村中

七町冶鍛町平

### 新流行型

## 海水用品陳列

・ビーチパラソルとコート 各種・

ツルヤ 電一四〇

### 旭硝子株式会社製品

## 板ガラス

赤菱印

硝子食器  
硝子壺  
硝子壺

### 松崎硝子製作所

平町新川町(電話一四二番)  
仙臺市榮町(電話五九七番)

### 夏のコンパル

銀座式特製

アイスクリーム	15
アイスコーヒー	15
ソーダ水	15
ミルクケーキ	20
ヤサイサラダ	30

満味の涼味にて御家族御同伴にて  
御來店の程御願申上ます。

食堂。喫茶。宴會。  
平町・電話六六六番

### 外科全般

醫學博士 渡部 義夫

### 小兒科

女 醫 渡部 きい子

入院應需 渡部 外科

平町田町大通り(電話二七七番)

### 貸切の御用命は!!!

獅子吼(四四九)ノ勢デ  
眞先ニ.....(マツサキ)  
三九ニタクシーへ!!!

# 烈日の下に

## 健身を跳躍

縣下女生相次いで來場

早くも大會氣分を横溢

### 明日の決勝戦

既報縣下女子中等學校陸上競技及び庭球大會は愈々明日午前八時より炎天下の櫻ヶ岡グラウンドに於て華々しく開催されるが喜多方女學校の一番乗りを初めとし福女、安女が相次いで乗り込み来り白ライントつきりと鮮やかな同グラウンドに健軀を跳躍させて練習を開始し早くも明日の大會氣分を横溢せしめて居る

# 虚弱兒童に

## 縣主催の臨海學校

赤沼海岸に開始さる

費用は縣が負擔

平町各小學校では來る八月一日より一週間赤沼海岸に開設される本縣衛生課主催虚弱兒童養護の臨海學校に虚弱兒童を參加せしめるが人員は六十名にて毎朝五時

# 桃の收穫二萬圓

本年は成績が良い

石城郡内より産出する桃及び桃密の早出しは既に終りを近づけ日中の市場には中出運出し桃果が顔を出すのが本年は氣候の關係から成績良く收穫は約八千貫二萬餘圓に達して居る尙神谷農事試験分場では桃の移出を計

### 記念碑除幕

飯野合併校の

石城郡飯野村小學校では

併校舍新築十週年に當るの

で學村一致して校庭に記念

### 小名濱上棟式

郡小名濱小學校の増築工事は此程基礎工事が出来上り去る廿七日午後二時より上棟式を行つた

# 平町水道の

## 水神社祭典

### 十月十五日執行

平町水道部では八幡小路配水池脇の水神社例祭を今年から十月十五日に行ふ事に決定

# 狩獵熱は害虫の

## 發生に如何なる

影響があるか?

### 石城郡農會調査

石城郡農會では毎年農作物に對する害虫發生が大體天候によつて左右されるものと斷案を信じて居るが近年は一般に狩獵熱が盛んとなつた結果虫を食餌とする

# 磐中野球軍が

## 明朝盛岡へ!!!

其後技倆の進境目覺しく

華々しい一戰期待

八月一日より盛岡中學球場に於て舉行される全國中等學校野球東北大會に我が福島を代表して華々しく福中と共に携へ出場する磐中チームは愈々廿日午前八時十分發にて遠征の途に着く

### 母校の

榮譽を擔ひ

磐女球技部が

磐女籠球及び排球部は去る二十七日より福島に於て舉行された縣下中等學校大會に出場し母校の榮譽を擔つ

同 12 — 9 喜女  
同 31 — 1 須賀川女

### △排球部

磐女 2 — 1 福女  
同 0 — 2 安女  
同 2 — 0 會女  
同 2 — 0 女師

### △籠球部

磐女 41 — 6 會女  
同 15 — 22 福女  
同 9 — 35 女師

# 警察署對抗試合に

横山平署長大意氣込み

今回縣下主要警察署たる福島、若松、郡山、平四署員の柔剣道對抗試合が行れる事になり第一回は來月二日から郡山市に行ふ事に決定したので横山署長は自から稽古着を付け署員相手に汗みどろの猛烈な稽古をつけて居る

# 角網漁業

## 豊漁續く

四倉組合活況

石城郡四倉町の角網漁業は引續き豊漁を呈し今春投網似來の漁獲高七萬圓を突破して居るので漁業組合では活況を帯びて居ると

### 休暇中の

召集日は

平町各小學校では三十一日に今學期の終業式を行つて翌日から楽しい夏休みに入るが休暇中の

# 平町人事

回 婚 姻

△鎌田一松田助三氏(四五) 白銀町三五橋本ハル(三一)

回 出 生

△鎌田町一 松田助三氏長男一男

回 死 亡

△五丁目二篠崎利子(二〇) △八幡小路六六 當時米澤市山上通町二四八五 山森ハツ(七〇)

御愛乗下さい シボレーに! そは先驅者なり

# 磐城セメント會社特約店



磐城平町五丁目 電話九番九九番

□良品廉賣に勝る商略なし  
□確實敏捷は 〆 の生命なり



平町各小學校 通電話六五六番

# 重要踏切の

# 交通量

## 平驛最近調査

平驛では交通量の最も多いと云はれる大工町及び播穂小路兩踏切の一日間の交通量を調査した處に依ると列車關係のみでも大工町は入替二百八十二臺、通行廿八臺、播穂小路は入替二百卅三臺、通行八十臺であるが其他主なる交通量左記の如くである

大工町	播穂小路
人員 四四三	三八七六
自轉車 一一五八	五七三
荷車 二一九	八五
自動車 五四	四三

# 煽風機十臺

今晚の舞踊の夕べに

## 間斷なき涼味

今晚七時から平第二小學校講堂に催される舞踊の夕べには會場に二千燭光の電氣を装置し十臺の煽風機から間斷なく涼味を送ると

平町古物組合 平町内郷好間兩村の古物業者は明日午後一時から尼子亭にて組合組織の發會式を舉げると

# 玉川村議が

# 減刑を懇願

## 村長の行動は

村民救済の爲めとして

石城郡玉川村の村會議員宮内久枝、大和田、佐久間、西丸源造、村上重一、小泉宗雄、渡邊二男雄、柳内竹次郎、長瀬彰義の諸氏は本日

日平検事局に出頭三堀檢事に面會し過般土木匠救事業に關する業務上の横領事實ありとして取調べを受けた駒木根村長外五名が幽霊人

夫を使つた事、私利私慾の爲めなく全く村民救済の意志に基づくものであると陳述し村長外五名の減刑方を懇願した

# 兒童貯金

## 第二校調査

平第二小學校では本日現在により全校兒童千二百八名の郵便貯金高を調査したが總額は一萬九百七十二圓九十九錢で一人平均十圓強に當る好成績を示して居ると

## 佐藤芳松氏

## 眞岡へ榮轉

常磐銀行平支店主事佐藤芳松氏は此程栃木縣眞岡町支店へ榮轉する事となり來る八月三日平發午前七時二十

# 鐵橋から飛込み

# 危い命を助かる

## 鐵道法違反で告發

相馬郡小高町字近原小幡重太郎(六)及び田村郡飯豊村字門金生田目義雄(三)の兩名は去月十四日午前十一時半頃石城郡好間村磐越線好間川鐵橋を通行中小野新町

發九十二號列車に出會兩名相次いで河中に飛込み事無きを得たが列車は是れが爲現場に二分間急停車したのち本日平驛長より告發された

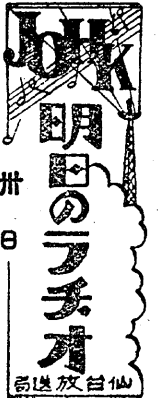
# けふ鮫川河畔に

# 平消防夏期演習

## 終つて地引網の清遊

平消防組では本廿九日午前八時全員の招集を行ひ井上組頭外百餘名の組員自動車に分乘して植田町鮫川河畔

に乘込み操練及び消火演習を行ひ終つて同地引網等の清遊を試みた



今晚も明日も南西の風曇一時晴驟雨の氣味

## 今晚の部

後六、〇〇 子供の時間  
放送紙芝居「日吉丸と追刺」島廼家勝丸  
後六、二五 將棋高段者手合(終)八段土居市太郎  
八段木村義雄 解説八段大崎熊雄  
後七、三〇 講演「滿蒙は

五分で赴任の途に付くと

好間惡疫豫防 石城郡好間村役場では近く古河炭礦健康保險課と協力して夏期傳染病豫防講演會を催す準備中

前九、一〇 榮養料理「夕食」鰹と人參のハワイト和へ」榮養研究所  
前九、三〇 子供の時間  
唱歌 山形縣長井小學校  
兒童ピアノ伴奏安部庄吉  
前一〇、〇〇 宗教講話  
臨濟宗南禪寺派管長現多治見虎溪山寺住職加藤至道  
前一〇、四〇 講演  
前一、一〇 講演「米國々民の對日感情」クライト  
前一、二〇 現代音樂の鳥瞰(終)日本音樂 日本放送交響樂團指揮山本直忠

後〇、五〇 滿洲より  
後二、〇〇 雅樂  
後二、二〇 但詠  
後二、五〇 ラヂオドラマ「演劇祭」日本俳優學校生徒大勢  
後六、〇〇 子供の時間  
うたとピアノ  
後六、二五 運動講座「軟式野球に就て」横井春野  
後七、三〇「新人の夕」日比谷公園新音樂堂より  
中繼 義太夫「夕霧」浄るり竹本越喜奏  
後七、五〇 長唄  
後八、一〇 新内「若木仇草」浄るり星野福壽  
後八、三〇 ラヂオ風景

# 浮浪者が焚いた

# 蚊いぶしで火事

今朝品川白煉瓦社宅から

今晚二時半頃石城郡赤井村品川煉瓦工場社宅前田茂方物置より發火乾燥して居る折として物置を全焼して午前四時鎮火したが損害四百圓原因は浮浪者が入込んで焚いた蚊いぶしから火を起したものでらしいと

# 理髮店の女房が

# 病氣を苦しめて

消毒薬を飲下自殺

石城郡内郷村大字宮字臺理髮業梅太郎妻瀧澤マツノ(三)は去る廿八日午前二時頃病氣を苦しめた結果石炭酸白五十グラムの嚥下して苦悶中を家人に發見應急手当を受けたが間もなく絶命した

## 裁判所だより

△磐崎村々會議員吉田直文氏の選舉違反事件に關する正式裁判の判決は本日午前九時より關口判事より罰金八十圓を言渡された  
△平町字月見町二十八番地

## 平職業紹介所報告

回人を求める方

- △漁業雑夫 二十五迄 月七八圓外面談(四倉町某)
- △商店雑夫 三十迄 月十圓外面談(四倉町某)
- △女中 三十五才 尋卒 月五六圓(双葉郡某)
- △指物徒弟 十六才 尋卒 仕着小遣(平町某)
- △雑夫 二十二才 高卒 給料面談(平町某)
- △回職を求める方
- △女中 五十三才 高一修 給料面談(平町某)
- △料理人 四十才 尋卒 給料面談(小名濱町某)
- △トラクタ助手 二十一才 乙商卒 給料面談(内郷村某)



# 銘劍秘双録

【禁無斷轉載上演映畫】

寶馬 井馬 琴演  
山本 英春 畫

第二回 血に飢ゆる村正

流れる紙が眞二つ  
相模川に沿つて正宗の一  
行は川上の方へ進んで行く  
川下の方は女子供が澤山出  
て混雑をする。さういふ處  
では花を見るのではない人  
を見るやうなものだから、  
成べく混雑をしない處で、  
緩く一日を遊び暮らさう  
といふ正宗の考へ。その日  
は所謂花曇りで、空はどん  
ヨリとしてゐるが、花は丁  
度見頃、咲きも揃はず散り  
も始めぬといふ時分です  
正『どうぢや此の邊で一杯  
飲らうではないか』  
と正宗が振返つて一同に  
促す、總領弟子の段九郎正  
近が

近『結構でございますな、  
此の邊は風景も佳し花も宜  
しうございます』  
弟子の一人が擔いで来た  
毛氈をそれへ敷く、正宗一  
同其の上に坐し、割籠を開  
き、瓢の酒を茶碗に注いで  
一同酒宴を始めた、口輕の  
正近が  
近『オイ正兼』  
兼『何ぢやい兄弟子』  
近『向ふにあるのは山櫻だ  
な』  
兼『さうぢや、吉野櫻のや  
うに花の大きいのも見えた



兼『夫は面白い、何と申す  
のだ』  
近『山櫻とかけて、藤九郎  
と解く、とはどうだ』  
兼『ナニ拙者を山櫻とな

と正兼ボン／＼怒つてゐ  
る時に正宗が  
正『コレ／＼一同少し静か  
に致せ、斯うして花を眺め  
酒を飲む内に、職の事を

らへたか、夫は喜ばしい。  
人は武士、花は櫻木と申す  
位、拙者武士ではないが、  
武士の魂と致す刀を作る鍛  
錬師、櫻に例へたのは喜ば  
しい、心は何だ』  
段九郎正近ニヤ／＼笑ひ  
ながら  
近『はなよりはが先に出る  
とは何うぢや』  
○『イヤ之は秀逸々々』  
一同がドット笑ふ  
兼『何が秀逸の事があるも  
のか、人を馬鹿にするにも  
程がある』

忘れてはならん、此の相模  
川の水に就て私が話をして  
聞かせるから、少し酒を止  
めて聞きなさい』  
○『オヤ／＼……』  
正『誰だオヤ／＼などと申  
すのは』  
村正と貞宗は両手を膝に  
置いて、師の言葉を聞き洩  
らすまいと謹聴をしてゐる  
正『今更申すまでもないが  
我々相模鍛冶の祖と云ふは  
備前の住人三郎國宗殿、此  
の國へ來られ相模川の水を  
見て誠に柔かにして刀劍を  
鍛へるには最も宜ろしとあ  
つて、此の國に刀鍛冶を開  
き給ふた、即ち我々の祖先  
である、國宗殿の御恩を忘  
れてはならぬが、此の相模  
川の水も我々に取つては忘  
れる事の出来ぬものぢや』  
○『夫では先生相模川の水  
も我々の恩人』  
正『水が恩人といふ事があ  
るか、何にしても、刀を鍛  
つ物は、己の心を優しく穩  
かに持たなければいかぬも  
のだ』

と云ひながら正宗が村正  
の顔をジロリと見た、村正  
早くも『ハ、ア師匠が乃公  
に意見をされてゐるのだな』  
と思つて、下を向いた。や  
がて立上つた正宗が  
正『劍には徳と威がなければ  
ならん、お前方の鍛つた  
劍も、私の鍛つた劍も、只  
見ては大した代りのないや  
うに見えるだらうが生なき  
劍にも自然徳不徳が供はつ  
てゐる。今其の證を見せて  
遣はす』  
と、正宗が己れの腰に帶

挟んでゐた自作の脇差を抜  
いて、夫を川上の方へ双を  
向けて水中に立てました。  
門人一同は、師匠が何をな  
さるのかと思つてゐると、  
懐中より白紙を取り出し、其  
の内の一枚を川上十五六間  
先の所から水に浮べた、其  
の白紙が流れて來て、丁度  
正宗の刀の一尺ばかり先ま  
で來ると、不思議や右の方  
に避けて、劍に當らず流れ  
て了つた、二三度試して見  
たが何れも右か左に避けて  
流れるから一同あつと驚嘆  
をする  
正『サア各々も試して見な  
さい』  
夫から代る／＼自作の脇  
差を水中に立て、川上から  
紙を流して見るとどれも之  
れもみな劍の刃へ卷附いて  
了ふ  
近『成程、名劍の威徳とい  
ふものは恐ろしいものです  
な』  
正『コレ村正、其方の脇差  
を試して見よ』  
村『畏まりました』  
そこで村正が同じやうに  
腰なる脇差を引抜き、水中  
へ立て、川上から白紙を一  
枚水に浮べるとスツツと流  
れて來たが、一尺……七寸  
……五寸……三寸……傍ま  
で來ても紙は避けない、扱  
ては矢ツ張巻附く方の組だ  
らうと思つてゐると不思議  
なる哉彼の白紙が劍の刃形  
に當つてスツツと二ツに裂  
けて流れた。夫を見ると師  
の正宗はブル／＼と身をふ  
るはした。

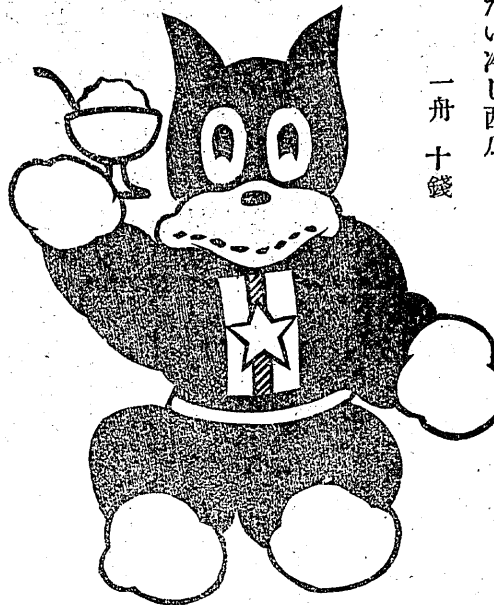
魚清新案の獨特な尖端的!!!

## 世印 朗アイス

その風味!!!香!!!フレッシュな舌ざはり  
容器もモーダンで涼味満喫!!!

### 一皿(山盛)八世

冷たい冷し西瓜  
一舟十錢



## 魚清食堂部

出前持至急入用

### 行商人募集

經驗の有無、男女、年齢を問はず  
希望者は大至急左記へ來談あれ  
粉末石鹼旭化學工業所  
村山 三郎  
平町白銀町五